

議

長 休憩を解いて再開いたします。

(10時00分)

受付番号第10号、古谷星工人君の一般質問を許します。登壇願います。

6 番 古 谷

それでは、議長のお許しを得ましたので、一般質問をさせていただきます。

受付番号第10号、質問議員、第6番 古谷星工人。件名、観光農業への取組について。

要旨。自然休養村事業の発足時には都市と農村の交流の場として観光農業の取組がされました。現在はミカン狩り、ミカンオーナー園、サツマイモ掘り等が行われています。

次のことについてお伺いいたします。

1、町内観光農業の現状について。

2、持続可能な観光農業の推進について。

以上です。よろしくお願ひいたします。

町

長 古谷議員の質問に順次お答えをいたします。

まず、自然休養村事業でございますが、当時の農林省が昭和49年度までに全国で170地区の自然休養村の指定を目指す中、本町では寄地区の自然を生かした観光農林業を計画的に、組織的に進めていくため、昭和48年3月31日付にて、国から自然休養村に指定され、昭和53年度までに寄自然休養村管理センター、農道などの基盤整備が行われております。そのとき…その当時の自然休養村事業に関連する観光農園は、芋掘り園で5園、栗拾い園で7園でありました。また、自然休養村事業とは別であります。松田地区ではミカン狩り園が10園があったなど、寄地区、松田地区の観光農園に多くの観光客が訪れていたと伺っております。

それでは、1点目の御質問の、現在の町内観光農業の現状でございますが、寄地区では芋掘り園が1園のみ、松田地区ではミカン狩り園が3園開園されております。ミカンオーナー制度につきましては、平成9年度に15園発足され、その内訳は、ミカン園と兼ねた園が3園で、オーナー園のみの園は12園でありました。現在はオーナー園のみの8園となっております。そのほかにブルーベリー摘み園が松田地区に1園ございます。現在のところ農業従事者の高齢化や

農業経営を引き継ぐ跡継ぎの方を確保できない、担い手不足となっていることが課題となっている状況でございます。

次に、2点目の持続可能な観光農園の推進についてお答えいたします。先ほど述べました課題の解消と、観光施策を充実させた観光農業を推進していくためには、本町の観光農業と商業との連携が必要不可欠でございます。現在松田ブランドの認定として、農作物の6次産業化や、付加価値をつけた商品販売を展開により、地元産農産物の活用を推進し、町のイメージアップと産業振興の推進を図り、また、農泊や体験事業の推進として、民宿を活用した民泊の推進や、株式会社D A S Iさんへの体験プログラムの造成、販売を委託し、古民家、名前が「やえか」において、令和5年度は7回事業を開催したことや、そのほかに新たな観光資源の創造のため、寄アクティビティ会による、地域と協働した既存資源のブラッシュアップ、各種体験コンテンツのマニュアル化による受け入れ体制整備、基盤整備に取り組んでいるところでもございます。また、旧寄中学校を借りていただいている事業者が町の課題解決に向けて、1次産業に特化した農林水産業を主としたアカデミーを開校され、人材育成や特産品開発などを行うと伺っておりますので、持続可能な農業経営及び観光農業の推進に向けて連携してまいりたいと考えております。

今後は松田町の自然を生かした持続可能な観光農業とするためには、「稼ぐ」をキーワードとした取組として、お客様のニーズに合わせた作物や高い付加価値がある作物に切り替えるのが望ましいとも考えております。そのためには必要な初期費用などの支援策等について、町としても協力してまいりたいとも考えております。以上でございます。

6 番 古 谷 回答ありがとうございます。まず、再質問に入る前にですね、台風10号の関係です。先月27日から31日まで、非常に大雨が降ったわけですが、道路の災害等については、昨日も町長のほうから話がありましたけども、農地の関係について被害等はですね、農地または作物にあったのかどうか、その辺を先にお伺いして進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

観光経済課長　ただいまの質問についてでございますが、神山の地区、北開戸、北開戸農道の農道上の農地のり面が一部崩れたというものと、南開戸、南開戸農道の農地のり面が一部崩れたというような状況がございました。以上です。

6 番 古 谷　ありがとうございます。それほど大きな被害は出てなかったということで認識させてもらってよろしいかなというふうに思います。隣の秦野市さんではですね、茶園がもう3段ぐらいにわたって、5年前の台風19号のときも壊れたという話を伺っておりますけども、ああいうふうな大きな災害でなくてですね、芋や作物がよかったなというふうに感じました。

それで、今、回答の中にありましたけれども、自然休養村事業、昭和48年の3月31日に指定をされてからですね、51年ぐらい経過してると思います。その中には昭和53年に自然休養村の管理センターができたということで、46年ぐらいたってるのかなというふうに思います。大分古くなってきて、町長も見に行ってきたというような話をされておりますので、これは今後ですね、どのようにされるか、また御検討のほうお願いしていただきたいなというふうに思います。

それから、観光農業といっても、皆さんもう御存じだと思いますけども、農作業や収穫体験を通して、訪問者に楽しんでもらえることを農業活動としております。収穫体験、植えつけの体験、あとは農産物の直売などもですね、地域振興に入ってきますので、農家の収入増加に寄与しているのではないかなというふうに考えます。観光農業のメリットとしては、農業体験を通して消費者と直接触れ合いができるということ。自分の作った農園の品物やですね、農園のやり方、魅力を伝えることが直接できるため、ファンができてきてですね、固定客、リピーターが増えてきて、今やっつけられる人はですね、そのことを大切にしながらやっつけていただいているのではないかなというふうに思います。

それからもう1点はですね、収穫作業というのは農家にとって非常に大変なものです。でも、これをですね、観光農業で来ていただいて収穫をしてもらえれば、お客さんも楽しみもありますし、農家にとっては収穫作業が軽減されるというようなメリットもあるのではないかなというふうに思います。

それで、今、松田町の農業が今どうなっているのかということで、ちょっとお聞きしたいと思います。統計等が出てると思うんですが、作物別の面積、諸収入、生産量などが分かればですね、少し具体的に教えていただきたいというように思います。

観光経済課長 一番直近のデータでは、平成4年度の国の統計資料の農林業センサスというものがございます。農林業センサスほかによりますと、松田町の耕地面積と農業産出額は、まず耕地面積は合計で135ヘクタールでございます。大きく田と畑に分かれておりまして、田が5ヘクタール、畑が130ヘクタールでございます。農業の産出額は1億4,000万円でございます。産出額を面積で割った1ヘクタール当たりの農業産出額は103万7,000円でございます。御質問にありました作物別の農業の産出額は、野菜と茶がそれぞれ1,000万円、果実が8,000万円、その他、米、芋類などは、1,000万円以下の統計でございましたので、その統計表の中ではゼロというような記載でございました。なお、足柄上郡を比較しますと、耕地面積及び農業産出額は松田町は最も少ない状況でございました。また、近隣の比べてみますと、耕地面積が松田町より少ない二宮町のほうが農業産出額は多いことから、松田町の、松田町では農業の経営規模が、経営規模が小さな農家が多いことが見受けられました。以上でございます。

6番古谷 ありがとうございます。作物別の面積、1,000万円以下は反映されていないことですが、この中で見ますと、果樹が一番やっぱり多いと。ミカンとあとはキウイフルーツ、ブルーベリー等もあると思いますけれども、果樹が一番多いということが分かりました。あと、それでもぎ取りにしても何にしてもですね、いろいろ調べてみますと、果樹が一番どこでも人気があるということです。それはもうもぎ取りしながら食べられるというのが一番の魅力だと思いますけれども、逆に、芋掘りだとか落花生だとか、その場ではなかなか芋自体は食べられませんので、掘るのがいいというようなことで出ております。

それから、先ほどちょっと言いましたけど、農産物の直売所がですね、松田町にも1か所あります。私も会員になってまして、時々品物を出してはいますが、こういうのもですね、観光農業の一つではないかなということで、桜まつ

り等はですね、非常にお客さんが来て売れ行きもいいということで、品物が足りないというような状況が続いております。午前中で大体終わってしまう場合もありますので、もっともっとなですね、作っていただければ、販売が、価格も上がって…販売金額も上がっていくのではないかなというふうに思います。

私も会員ですので、地産地消の会ですね、年間の売上げ、ちょっとお話しさせていただきたいと思いますが、約1,600万の売上げがあります。そのうち、農産物、野菜類として農家の方が持ち込んだのが1,300万。残りの300万が雑貨だとか豆腐だとかもやしだとか、そういうものだというふうに思いますけれども、1,600万円…野菜類としては1,300万円の売上げがあるということで今取り組んでいるところでございます。

それと、今言いましたけども、観光農業と観光農園、これちょっと混在してちょっと分かりづらい部分があるかと思うんですが、観光農業というのは、私的には掘り取り、刈り取り、収穫、そういうのを観光農業というふうに私ちょっと思っています。観光農園というのは、もう最初から、作付けから、植えるところから収穫までをやるような感じ。例えば、今多い…よそでやってるのは落花生だとか、そういうのの観光農園、これは滞在時間が非常に長くなりますので、取組は非常にちょっと難しくなってくると思います。トイレなり駐車場、休憩所が必要かなというように考えます。観光農業は収穫だけですので、滞在時間は短いので、もう手洗いの水ぐらいを用意すれば取組は簡単にできるかなということで、昭和…自然休養村ができた昭和50年頃ですね、またその辺を見ながら復活できればなというように考えております。

どんなものが人気があるかというのは、先ほど言いましたけどミカン狩りなり、イチゴ狩りはこの辺当時ありませんけどイチゴ狩り、あと芋掘りなどが収穫体験では非常に人気があると。植物などの鑑賞、見学が目的の部分もあります。これは松田で言えば桜まつり、ロウバイまつり、この辺もですね、観光農業の一環ではないかなというふうに思います。それとあとはオーナー制度、当時はでもミカンのオーナー制度、今現在8件ってさっきあったと思うんですが、大分当初からはですね、減ってきたというのは、この中にも書いてありました

けども、高齢化や、農業経営を引き継ぐ後継者が少なくなっているということで、減ってきているのかなというように感じます。当時、私の家でも祖父がですね、栗拾いをやってました。時々手伝いに行ったりしたんですが、当時結構人気がありまして、栗が足りないということで何か前に収穫したやつをまいてから、お客さんが来たときにやったというような、それだけお客さんも来てたときがありますので、これはやり方次第によってはですね、今後もまだまだ観光農業としてできるかなというように考えております。

それでは2つ目のほうの、持続可能な観光農業の推進についてということで、にさせていただきたいと思います。まず、この回答の中でもありましたように、「稼ぐ」をキーワードとして取り組みたいということで、やっぱりもうけがないとですね、なかなか取り組んでいかれる方が少ないと思いますし、この観光農業のいいところはですね、先ほどちょっと言いましたけども、無駄を出さない、無駄が出ないということですね。市場や何か出しますと、規格外が大分出ますけども、そういうものは規格外も含めてお客さんに販売というか、収穫体験で持っていってもらおうということがありますので、非常にね、SDGs的な取組もできるのではないかなということを思っております。

あとは、観光農業で、先ほど言いましたけど、消費者とは直接対面で販売するというのもありますし、子供さんがいればですね、食育の提供の場としてもできると思いますので、この辺は生産者の方がですね、うまく話をされれば、もっともつとですね、お客さんに食育の場を提供することができるというように思います。私も寄養魚組合のイベントであちこち行って魚を焼いて売っておりますけども、このときもですね、魚の魅力だとか、自然で…だとか、最近は餌が高くて魚も高いんですよとかと言いながらですね、いろいろ話をしながら楽しくですね、やらせてもらってます。

それで、あとちょっとお聞きしたいのが、回答の中で「古民家での体験プログラムの造成、販売を委託し」とありました。この辺、7回事業を実施されたということなんですが、この7回の内容を少し教えていただきたいというように思います。

観光経済課長　この古民家の体験観光推進事業につきましては、農泊や体験事業の推進として、先ほどの回答どおりでございますが、株式会社D A S I への体験プログラムの造成、販売を委託して、平成…令和5年度7回実施したものでございました。目的としましては、先ほどの答弁のとおり、寄の豊かな自然や地域資源を生かしたものでございまして、寄地域での拠点づくりを推進することで、体験型観光による地域の活性化を図ることを目的として実施したものでございました。7回の具体的な内容でございますが、代表したものを申し上げますと、古民家で藍染めの体験を9月に実施いたしました。古民家の竹飯ごうとリーフアートを10月に実施しました。ユズの収穫と、古民家でユズのジャムづくりといったことを12月に行いました。こういったことで、寄の魅力を知ってもらいまして、寄の施設の拠点化づくり、または観光推進に図られたものとして取組を進めたものでございました。

6 番 古 谷　はい、ありがとうございます。7回やってるということで、今、主なものを挙げていただきましたけども、これも観光農業の一環に入るのかなというように思います。藍染めにつきましては、藍染めの会の方々が藍を栽培されてですね、やっておりますので、この辺もそうかなというように考えますし、ユズジャムですね、この辺も松田町のブランドにも一つなってるのがありますがけども、ユズ精油というのがありますけども、この辺も売れない、販売できないものを使ってやってられるということですので、ぜひですね、この辺いいものがあれば引き続きお願いしていきたい、していただければなというように思います。

それから、回答の中にもありましたけども、旧寄中学校の関係です。この前説明会に参加させていただきましたけども、農業アカデミーを開講する計画がありますね、寄地区の活性化に向けた取組に期待していきたいというように私は思っております。この中で、アカデミーの内容、まだ具体的に私も聞いてませんが、農業者と連携してですね、観光農業の推進、取組ができたらいいのではないかと考えております。ぜひこれは町が間に入っていただき、農業者とのパイプ役になっていただいでですね、観光農業への取組を進めていただき

たいというように思います。

それから、観光農業をやっていくのに、1人でやってもなかなかできません。対応ができませんので、これをですね、グループ化なり組織化していきたいというように考えるんですけども、今の若い人、これからの人なんかは、もう役をやるのが嫌だという人がいますので、役を、みんなが役を持つというような形で、誰でもが同じような意見を出し合ってですね、みんなで決めて、やりながら決めていってやればというように考えます。どこの地区でも自給野菜をつくってる方が一緒、大分いられますので、この辺の自給野菜をですね、もう少し増やしてもらって、観光農業に進められるようグループ化にお力添えを頂ければなというように思います。

それからあと、皆さん御存じだと思いますけども、今、野菜が時期によっては高騰したり暴落したり、すごいしておりますけども、直売所の販売観光農業というのはある程度一定、安定しておりますので、その辺を含めてですね、今後進めていっていただきたいと、グループ化なりの御支援を頂きたいというように思っております。

それから一つ心配されるのが、観光農園やって残っちゃったよと、残っちゃったからどうしようかということもあります。この辺はですね、この回答の中にもありましたけども、ニーズを見ながら、どういうものを作って、どういうもので観光農園をやっていくかというものも、これからの、もしやるとなれば検討課題ということできたいと、になってくるかと思えます。

いつもこういう農業の話になりますと、農業全体は高齢化で担い手不足という話になってきて、なかなかつながっていかないのが現状ですので、ぜひですね、ちょっと音頭取っていただいてグループ化をさせていただいて、寄地区なり松田地区の観光農業の発展に寄与していただければというように思います。

町 長 すみません。そこで「思いますけどどうですか」と言ったらどうですか。なんか全部自分で、全部言っちゃってるから、楽しちゃっている。

議 長 質問の形で終わるようにお願いいたします。

6 番 古 谷 はい、はい。グループ化をですね、ぜひ推進頂きたいというように思います



ので、ぜひその辺の取組についてお願いしたいと思います。

観光経済課長 観光農業の推進ということで、寄自然休養村の管理センターにつきましても、経営の強化を図るために、この機会ですが、補正予算認められれば、デジタル人材ということと、管理センターの経営改善を図るためのシステム、予約システムというのを導入させていただきたいと思ってます。そういった中で、そういったハブができるということで、宿泊やアクティビティーの体験もそうなんですけど、観光全般に対して、農業に対してもそういった情報を集約した中で、その地域、寄地域が盛り上がっていけばというふうに考えております。町としましても前向きに進めてまいりますので、どうぞ地元の方々も御理解、御協力をくださるようお願いいたします。

また、ミカン園、ミカンにつきましては、歴史を調べますと、松田山にミカンの苗木を植えたのが明治時代の中期と言われております。その歴史は120年を超えております。この歴史を今後受け継ぐために、町としても対応する必要があると感じております。JAかながわでは、回覧とかで御覧になったと思いますが、農業基盤の維持拡大事業として、以前からレモンの苗木とか、湘南ゴールド、キウイ、最近ではニンニクの種の購入の補助をとという制度がございますが、ミカンの苗木の制度はございません。農業者は高齢化とか、担い手の引き継ぐ者がいないということで、担い手不足を叫ばれておりますが、これらの松田山の件に関しましても、今、協議会を開催しておりますので、協議会や農業委員さんの御意見、または実際に作られてるの方々に対しましては、この後、地域計画で座談会というのを開催しますので、そういったところで意見を集約して、農業経営または観光推進、そういったものを含めまして町、鋭意に前向きに取り組んでまいりますのでよろしく申し上げます。以上です。

6 番 古 谷 はい、ありがとうございました。それでは最後にですね、回答の中にもありましたように、こういう観光農業を進めていくに当たりですね、必要な初期費用の支援策ということで、町としても協力したいと考えておりますということで回答されておりますので、この辺の内容についてちょっとお伺いしていきたいと思います。よろしく申し上げます。

町

長 質問ありがとうございます。遠藤さんが先走って話したところもありますので、ちょっとあれしますけども。まずこの観光農業というか、寄の活性化、農業の活性化については、やはり消費者がいて初めて成り立つものだというふうに理解をしています。その中で、ちょっと寄に特化した話をしますと、観光農園に目指して来る人もいれば、トレッキングだとかいろんなアクティビティーがあるからって遊びに来る人もいますけども、それだけじゃやっぱり今の現状で足りないというような状況もあるので、やはり今ある資源を生かすということをも含めながら、このスポーツ施設を生かしていきましょう。そのスポーツツーリズムというのは、スポーツ団体の方々が、スポーツだけ来るんじゃないで、その場で泊まったりだとか、そこで泊まっていたらいいければ、当然その宿泊施設で地元のものを使ってくれるとか、そうするとまたそこで売ってるものありますし、買ったりだとか、農業体験だとアクティビティーをするだとかとって、別のお金も入ってくる。そういうふうなのをつなげていくのが、ツーリズムというふうな一つの考え方でありますので、それで今やってるところであります。

ですので、農業のいろんな基盤を整備すれば、じゃあイコールいいかというところ、そうではないところはやっぱり並行して、やっぱりやっていかなきゃいけないという考え方の下にこれから、やはり買いたくてもやっぱりある程度付加価値というか、今の値段が例えば100円、200円で売ってるものが、やっぱり400円、500円で売れるようなものにしていかなきゃいけないですし、売れるものをやっぱり作ってもらいたい。その作ってもらうに当たっての、やっぱり初期費用とかについて、町としてもその負担額をですね、減らしていきたいというふうに考えています。というのが、やはり今まだ元気で農業をやっていただいている方がいる間に、その基盤を何とかつくっておかないと、人材不足とか、高齢者がとか、いろんな話ありますが、やはり今やってもらってるところですごく何か稼げるなどいったら、もうちょっと広く作ろうか、もうちょっと作ろうか、これ人間なんですよね。だというふうに私はそう思うので、やっぱりそういった先輩たちがお元気な間に広がっていくことによって、若い人たちにいい

感じでバトンタッチができるような農業施策といいたいでしょうか、そういうふうになることを期待しているところでございます。ですので、具体的にはこれからいろんな、古谷議員とかにもいろいろ御相談して知恵を頂きながらですけども、どういったものに対してどういった制度設計すればいいかというふうなことはこれから考えますけども、とにかく前向きにそういった支援をしていきたいというように考えます。以上です。

6 番 古 谷 町、回答ありがとうございます。やっぱり、私、毎回この農業の関係やっていますけども、元気がないとできませんし、もうからないとやりません。ですから、初期投資に関して、初期の費用に関して少し面倒頂ければ、元気なうちにですね、皆さん取り組んでくれる方がいられると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。じゃあ、以上で終わります。

議 長 以上で受付番号第10号、古谷星工人君の一般質問を終わりにします。